

モロッコの都市空間

——旧市街の空間構成における試案——

CITY SPACE IN MOROCCO

A Study of the Composition in Old City Space

金子 友美* 鶴田 佳子* 田中 優香**

KANEKO Tomomi, TSURUTA Yoshiko and TANAKA Yuka

This is the report of the research in Morocco in 1995. We pick up five cities in Morocco (Marrakech, Fes, Rabat/Sale, Essaouira, El Jadida) and introduce their characters. There are three types of the city's form. The type of A is the cities that keep historical form of the Islamic city. The type of B is the Islamic cities include the other elements. The type of C is planned by the European urban planning.

1. はじめに

現在私たちがヨーロッパで目にする都市形態の多くは中世期に形成されたものが原型となっている場合が多い。これらは旧市街と呼ばれ、城壁など中世都市の要素をそのまま残しているもの、城壁が道路に替わり中世の都市の骨格の上に新しい要素が置かれているものなどがある。いずれの場合もその外側に新市街として全く新しく計画された街区が形成されている都市が多い。

今回の報告は、主にこの旧市街を対象として1990年から継続的に行っている「海外都市広場調査」の一環として、1995年夏訪れたモロッコ、ポルトガル、スペインの3カ国の中で、アフリカ大陸の北部の国モロッコを取りあげ、調査結

果からその特性を述べるものである。

2. モロッコの地域特性

モロッコにはリーフ山地・中アトラス山脈・上アトラス山脈・アンティアトラス山脈の4つの山脈がそびえている。これらの山脈が、温暖で雨の多い大西洋側と南部の砂漠地域を分ける役目を果たし、また季節的にも雨は春と秋にまとめて降り、夏は乾燥して暑いという変化に富んだ気候分布をもたらしている。

またこれらの山脈は気候的な変化だけでなく、産業、言語、人々の生活等にも影響を与えている。

* 昭和女子大学生生活科学部生活美学科助手

Assistant, Dept. of Human Environmental Science and Design,
Faculty of Practical Arts and Science, Showa Women's Univ.

** 昭和女子大学大学院生活科学研究専攻

Graduate Student, Dept. of Practical Arts and Science, Graduate
School of Practical Sciences, Showa Women's Univ.

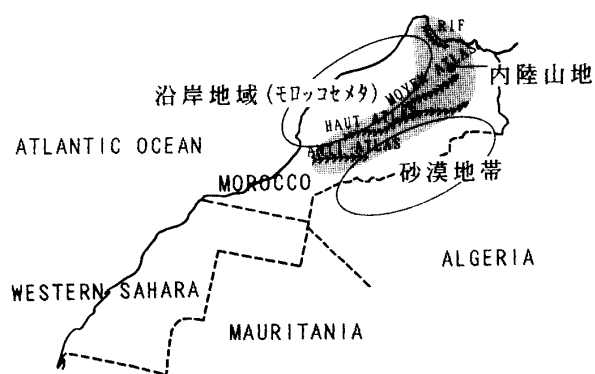


図-1 モロッコの4つの山脈と地域

①沿岸地域

地中海側のリーフ山地・アトラス山脈の西側の台地で、沿岸の高地や平野部まで段状の隆起が連なっている地域は「モロッコメセタ」と呼ばれ、モロッコの農業・商業活動の中心的地域である。山脈によって南北の風が妨げられ、肥沃な平野が広がっている。

この地域の大西洋側には風や海流の影響を受け漁業やその加工業を中心とした都市が分布している。

②内陸山地

3000m級の高山が連なる山脈地帯は沿岸地域と砂漠のサハラ地方を隔てる幅広い境界線となっている。放牧や森林開発を中心とした生活が営まれており、遊牧民の姿も目にすることができる。上アトラス山脈の南側には、カスバが点在する通称「カスバ街道」がある。

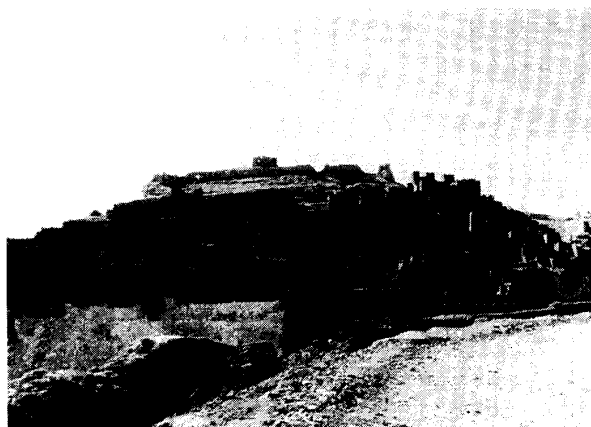


写真-1 カスバ街道の風景

③砂漠地帯

アトラス山脈の南側には砂漠の入り口ステップ気候の地域と広大なサハラ砂漠が広がっている。この地帯では灌漑を利用したオアシス農業が行われ、居住域である町はふうオアシスのナツメヤシ林の外縁に開けている。

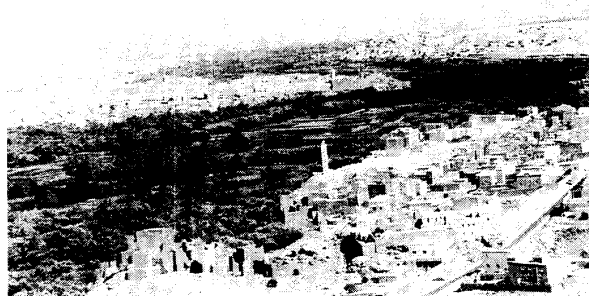


写真-2 モロッコのオアシス風景

3. 都市の紹介・概要

今回の調査では16の都市について調査を行ったが、以下にその中の5つの都市を取り上げ旧市街の状況を紹介する。ここで述べる旧市街とはイスラームの都市の居住域である「メディナ」と城塞である「カスバ」の両者を指すものとする。



図-2 各都市の位置

①マラケシュ Marrakech

マラケシュはアトラス山脈からの水を引き、緑豊かなオアシスに花開いた、フェズに次ぐ第2の古都である。標高450m以上に位置し都市内部にほとんど高低差はなく、「赤い町」と呼ばれているように、建物の壁は土の色と同様、赤煉瓦色であるのが特徴的である。11世紀後半にベルベル人による最初のイスラム国家ムラービト朝の都として建設され、マリーン朝で首都が移り一時衰退するが、15世紀半ばサード朝の首都として再興する。町は、城壁に囲まれた巨大なメディナ、王宮のあるカスバ、縁辺部に広がる農園、メディナの西側に延びる新市街から構成されている。メディナの核であり、ゲートの役割を果たすのは巨大で活気に満ちあふれた広場、ジャマア・エルフナ広場である。店舗、ホテル、モスク、銀行、郵便局等が周辺に建ち、広場内部には屋台が並ぶ。時間とともにその様相は変化し、朝、昼、夕、夜では全く違った機能、形態を見せ、常に人を惹きつける空間である。この開放的な広場から幾つもの通りが延び、北側には迷路状のスーク（商業空間）が広がる。スークは何本もの小路が交差し複雑な形態であり、袋小路になっているものも多い。業種毎にかたまって街区を形成し、街区境界の門も見られる。そのスークエリアの一角に以前は奴隷売買に使用されていたというラフバ・クディーマ広場がある。規模は大きくないが絨毯や、薬、香辛料、魚などの日常生活に結びついた店舗が並ぶ。更に北へと蛇行しながらスークは延び、奥には装飾の美しいマドラサ（神学校）とモスク、霊廟といった宗教施設が少し離れて建っている。このメディナは周囲を赤い城壁と幾つかの城門で取り囲まれ、城門からジャマア・エルフナ広場までの明確な導入とは対照的にそこから先への侵入は複雑に構成されている。

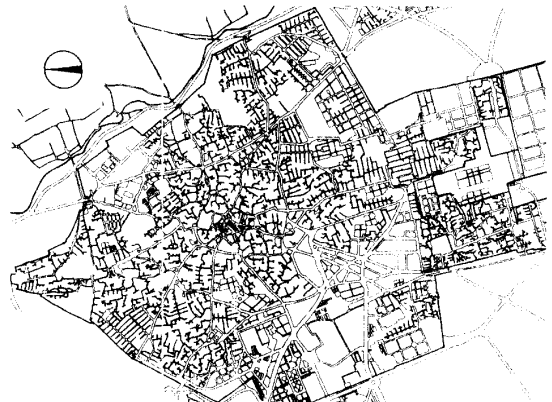


図-3 マラケシュ 都市図

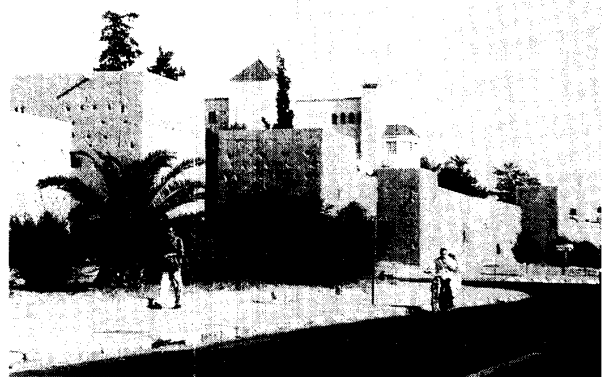


写真-3 マラケシュ 赤い城壁

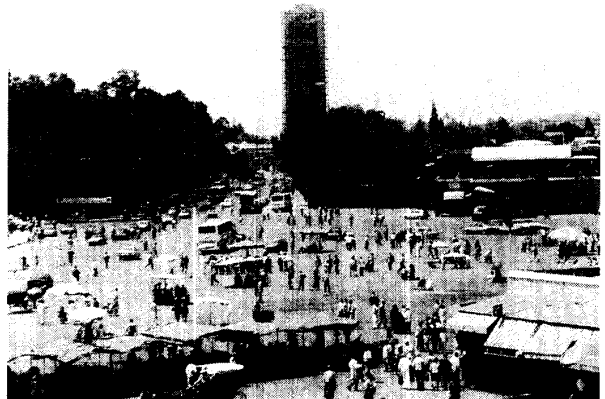


写真-4 マラケシュ ジャマア・エルフナ広場



写真-5 マラケシュ スークの一角

②フェズ Fes

北部の内陸部に貿易中継地として栄え、マリーン朝期には首都となり、現在も数々の重要建造物のある歴史的な町である。

現在の町は2つのメディナと新市街の大きく3つに分類される。一番北東に位置するフェズ＝エルバリはボロボロに古くなったフェズの意で、この地区は歴史的建造物の宝庫になっている。すり鉢状の地形のため谷間がメディナの中心地になっており、川が南北に流れ、外周の門からは100m程の高低差がついている。この自然の地形を利用して街の骨格となるメインストリートが形成されている。故に至る所坂だらけであり、迷路状の道路網の複雑さに輪をかけている。メディナの外周は城壁と城門で囲まれ、西側に位置するブー・ジェルード門の門前はメディナの内と外と両側に広場をもち、賑やかである。フェズのメディナは今回調査を行ったどこの都市よりも複雑で、様々な要素が組み込まれ密度が高く、エネルギーが放たれていると感じられる。細い路地ばかりであり、輸送手段としてロバの利用度も一番高いのではないだろうか。通りは天窓付きの屋根や、簾のような遮光性のあるもので覆われ、しつらえられている所もあり、またメインストリートを中心に店舗群や複合的な商業施設、モスク、聖廟、小規模な広場、水場などの幾つもの要素が点在し様々な機能を果たしている。この複雑なメディナの中心には北アフリカ最大規模のカラウィーン・モスクがあり、その周辺には聖廟、図書館、4つの神学校、寺子屋的教室、広場、トイレ、水場等が集まり、このモスクへ向かう人の流れとモスクの巨大さ、壮麗さが中心的存在であることを物語っている。しかし、このモスクの周囲も細い路地が張りめぐらされ、誰もが簡単に、ここが都市の中心である、と認識できる存在にはなっていない。

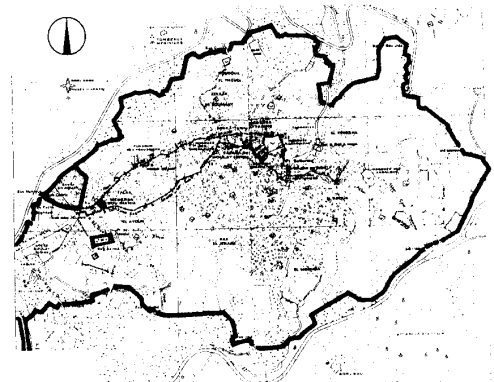


図-4 フェズ 都市図



写真-6 フェズ メディナ中心部付近を見下ろす



写真-7 フェズ メディナの入口、ブー・ジェルード門

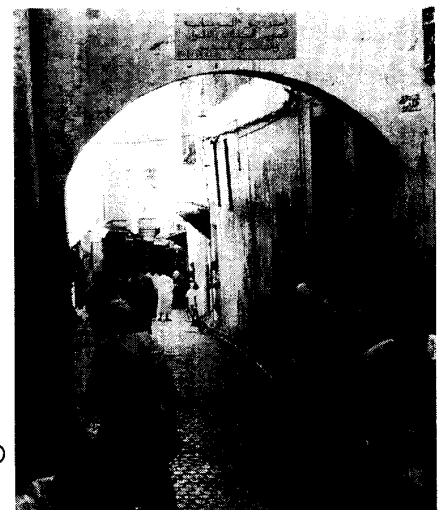


写真-8
フェズ
メディナ内の
街門

③ラバト Rabat ・ サレ Sale

現在、ラバトはモロッコの首都として、行政の中心地の役割を果たしている。植民都市として紀元前3世紀からの歴史があり、現在の都市のはじまりは10世紀にベルベル人が川の東側にサレの町（メディナ）をつくり、西側に要塞を作ったことである。その後12世紀に川と海の合流点に位置する岬に要塞都市カスバ・ウダイアが建設された。カスバは城壁で囲まれ、その内部には大門から手旗信号台広場までのメインストリートを中心にモスク、店舗、住宅等がある。この通りの両サイドから幾つもの道が延び、その道に面して装飾の施されたブルーや黄色といった色鮮やかな扉があり、白壁の町並みに映えている。また、大門前広場東隣りには手入れの行き届いたアンダルス庭園がある。このカスバの南に広がるメディナは、対岸のサレの衛星都市として作られていった。メディナは袋小路のある迷路状の道路網となっているが他の都市のメディナと比較すると、規模は小さく、分かりやすい構造になっている。周囲は海、川、城壁に囲われ、要所にはモスクが点在し、店舗群は幅が広く直線的なスイカ通りとコンスル通りに多く、賑わいを見せている。このメインの通り以外は、人がすれ違える程度の幅の道が多く、両端に一段高い歩道があり、白壁の続く住宅街になっている。ここの扉も装飾が施され、各々の入り口を明確に表示している。

ブーレグレグ川を挟んで対岸にある町、サレのメディナは南北に長く、ラバトのメディナよりも迷路状であるが、ここも白壁と装飾され色鮮やかな扉は同じである。また、大モスク前の広場は斜面を利用した階段状のものであり、モスクとその隣にあるマリーン朝の細かい装飾の美しいマドラサが中心的存在にあるが、市松模様に敷き詰められたタイルと白い家並が印象的である。

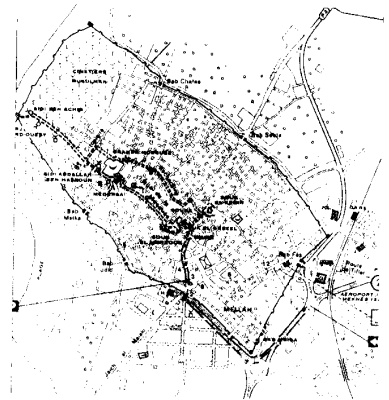


図-5 サレ 都市図

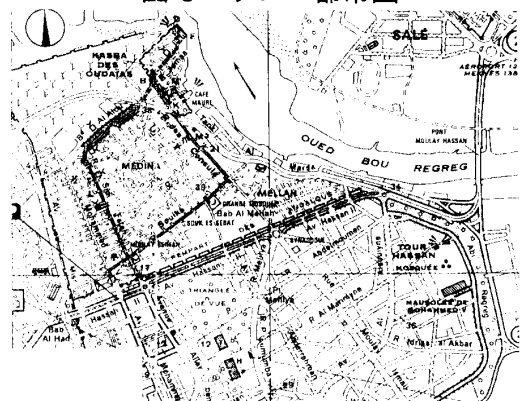


図-6 ラバト 都市図



写真-9 ラバト カスバ・ウダイア内のメインストリート

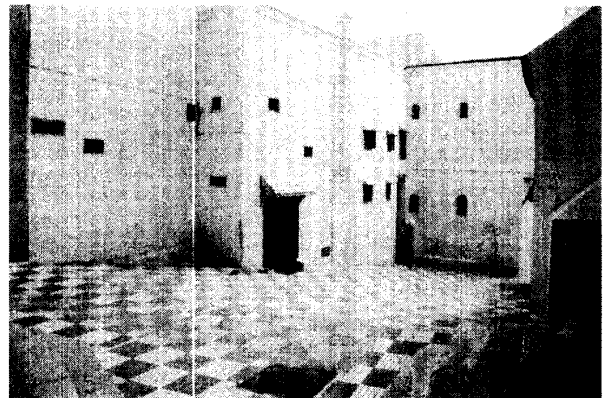


写真-10 サレ モスク前の広場

④エッサウィラ Essaouira

エッサウィラは古代からモロッコ沿岸貿易の中継地であり、重要な港町であった。10世紀には町の守護神シーディ・モグドルにちなんで、「アモグドル」（よく守られしもの）と名付けられた。その後15世紀ポルトガル人によって「モグドゥラ」、スペイン人は「モガドゥル」、フランス人は「モガドル」と呼び、現在の「エッサウィラ」（図または城壁をめぐるしところの意）となったのは18世紀のことである。

16世紀の初めポルトガル人がキリスト教の要塞を築く。城壁の上に塔がそびえる現在の町並みは、18世紀フランス人技師によって設計された。港には見回りのための道「スカラ」が現在も残っている。

城壁に囲まれた旧市街は中心を新市場通りが真っ直ぐに貫いている。通りに面する建物は殆どが1～2階建の低層で、1階にはアーケードが設けられ、商店が軒を並べ商品が道端に溢れている。人の往来も多く華やいだ雰囲気である。道の両側には歩道が設けられているが、人・車・自転車・リヤカー等すべてが通りの真ん中を行き来している。また、周辺の建物は白く塗られ、青いがらりの付いた窓が並ぶ。

旧市街のほぼ中央にはこの新市場通りを挟んで市場が設けられている。アーケードのついた壁で空間が分けられ香辛料、果物、陶器、籠、魚などが売り買いされていた。

旧市街南西端にムーレイ・エルハサン広場がある。広場に面するモスクとミナレットも他の建物同様白く塗装されている。広場にはカフェやホテルが並び、日除けの傘の下、お茶の時間を楽しむ人々の姿もあった。この広場の南側には近代的な矩形の広場がある（名称不明）。ベンチや街灯が設けられているが、立ち止まる人も少なく整然とした印象である。

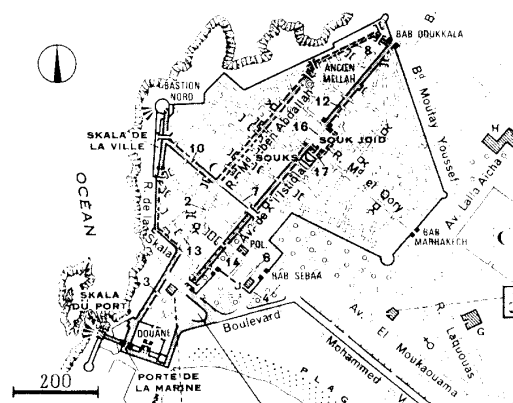


図-7 エッサウィラ 都市図

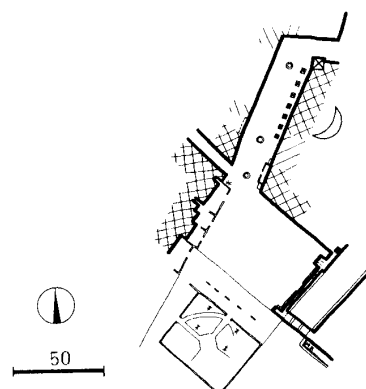


図-8 ムーレイ・エルハサン広場



写真-11 新市場通り



写真-12 香辛料の市場

⑤エル・ジャディーダ El Jadida

エッサウィラ同様16世紀の初めポルトガル人によって築かれたキリスト教徒の要塞が現在の都市の原型である。当時は「マザガン」と呼ばれ町はポルトガル人で溢れた。16世紀の半ばには周囲に城壁が築かれ、稜堡が造られた。この配置は戦闘に際して死角を少なくするように設計されていて、この要塞はモロッコに最後まで残ったポルトガル人要塞となった。攻防による町の崩壊は19世紀初め再建され、町は「エル・ジャディーダ（新たなるもの）」とされた。その後メッラーフ（ユダヤ人街）、フランス保護領の歴史を経て現在に至っている。

旧市街は現在も城壁に囲われた要塞の形を残している。城門を入ってすぐのTerreiro広場にはモスクと教会が並んでいる。モスクの隣にはイスラム世界で唯一のものといわれる五角形のミナレットが建つ。広場の入り口には車止めがあり、自動車は侵入できない。広場には市民の姿は殆ど見られず閑散としていた。

城門から海へと向かう Mohammed al Hachmi Bahbahは旧市街を真っ直ぐのびる通りである。この通りにはポルトガルの貯水槽の遺跡があり観光客の姿も見られ、土産物を売る店が軒を並べている。建物は赤茶色の土の色そのままのものと白く塗り込められたものが共存する。通りは石畳が敷き詰められ歩道が設けられている。



写真-13 ポルトガルの貯水槽

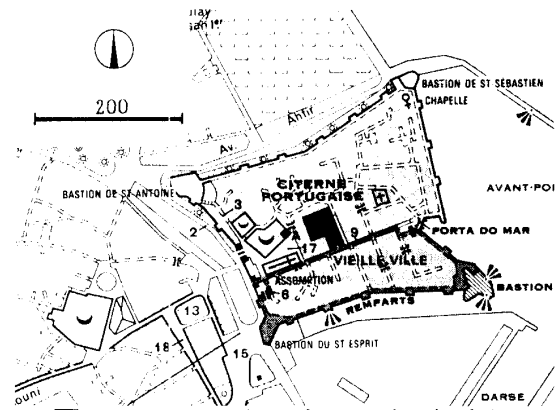


図-9 エル・ジャディーダ 都市図

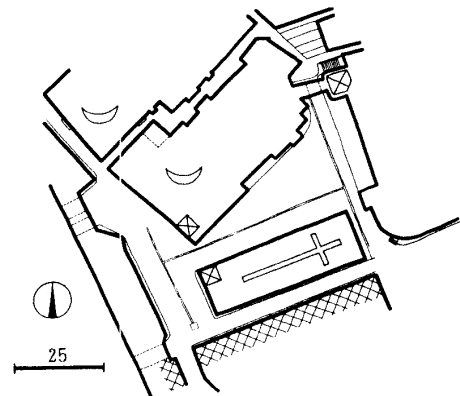


図-10 Terreiro広場



写真-14 城壁越しに町を見る

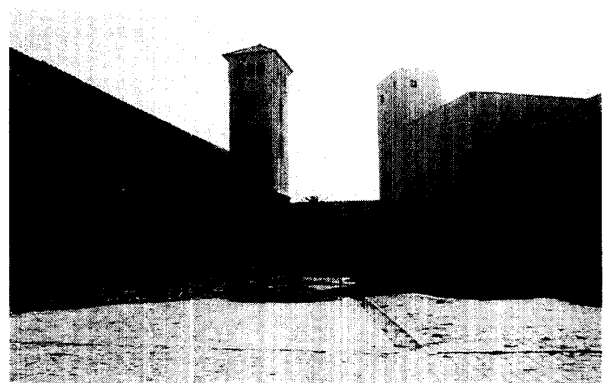


写真-15 Terreiro広場

4. 考察

①ヨーロッパの都市像

私たちはこれまでヨーロッパの中世を起源とする形態をもつ都市を中心に調査を行ってきた。個々の都市はそれぞれ異なった歴史を持ち、具象的な形態は様々であるが、全体を概観すると共通した都市像が浮上してくる。

『広場は道から独立して建物に囲まれているのではなく、道が合流するところと密接に関係しており、道が拡大したものである。』（註1）

イタリアのチッタデラでは円形の城壁と堀で囲われた市域の中央に教会があり、広場が設けられている。広場は4つの城門から真っ直ぐにのびる道路の交点に位置する（図-11）。この広場には市庁舎も面しており、配置的だけでなく宗教・行政上でも町の中心となっている広場である。

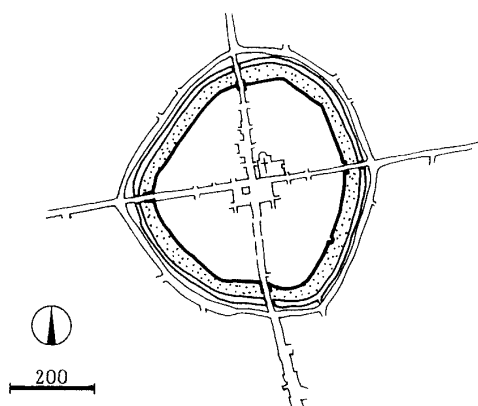


図-11 チッタデラ都市図（イタリア）

『小路のみは単なる通路であったが、その他のものはさまざまな用途、すなわち通行、休息、取引、会合のための役割を果たした。』（註1）

ルーマニアのティルグムレシュのトゥランダフィリロル広場は町を東西に抜ける通りの一部が幅が広げられ広場となったものである。文献からは19世紀には町の商業取引の中心であった様子も窺える（図-12）。現在通りの中央は公園風に設えられ市民の憩いの場となっている。

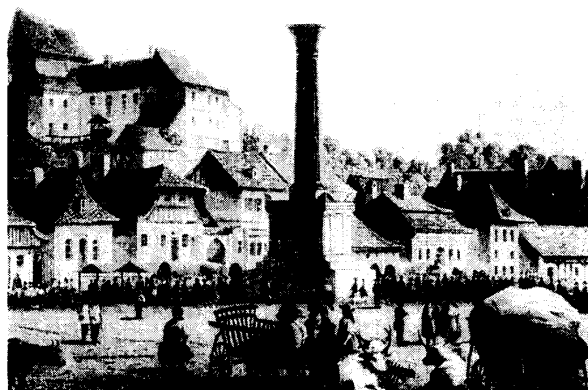


図-12 1860年のティルグ・ムレシュ（ルーマニア）
（『Urban Development in EUROPE: BULGARIA, ROMANIA, and THE U.S.S.R.』より）

『住宅はほとんど多層階をもっており、公共の空間に対して開かれ、道や広場の環境を形づくるようにファサードをもっていた。』（註1）

ポルトガルのオビドスでは窓辺に花が飾られ、ドアや窓枠には彩色が施されている（写真-16）。ブリュッセル、グランプラスの建物のファサードは規則性があり、4面が一体となって広場空間を創り出している（写真-17）。



写真-16 オビドス（ポルトガル）



写真-17 ブリュッセルのグランプラス（ベルギー）

②イスラーム圏の歴史的都市像

一方、イスラーム圏の歴史的都市については以下のような形態が観察される。城壁に囲われ、外部との交易の場として城門近くに広場が設けられている場合がある。この広場は特に都市の中心機能を担っているわけではない。こうした広場から伸びる通りにはしばしば市場(スーク)が形成されている。文献によれば、『市場の街区は大抵は敷石で舗装されていて暑い日差しを避けるためにアーケード街をなしていた。』(註2)という。

市場以外の街路は迷路状の平面形態を持ち、その先端はしばしば袋小路になっている。この街路は通行のための道であり、外敵の侵入に対しての防護システムでもある。

住宅は通りに対してはほとんど開口部を持たず、小さな窓や扉があるのみである。たいていは中庭に対して開いた形となっている。また外壁も隣家と共有している場合があり、通り側からは住戸の単位が判別しにくい。

③モロッコの都市

モロッコもイスラーム圏に属する一国である。しかし現在の都市の空間構成については異なる状況が観察され、必ずしも前述のような歴史的都市像ばかりではなく、道路や全体の配置などの関係を検討すると、以下のような都市空間のタイプと事例の対応が考えられる。

A. イスラーム圏の歴史的都市構成を維持しているもの

紹介した5つの都市のうち、マラケシュ、フェズはこのタイプに含まれると考えられる。

マラケシュのジャマア・エルフナ広場までは現在その南方から車で容易に乗り入れることができる。広場は1日の時間の中で表情を変えていくが、そこから伸びる迷路状の旧市街の入り口であり交易中心の場である(写真-18)。

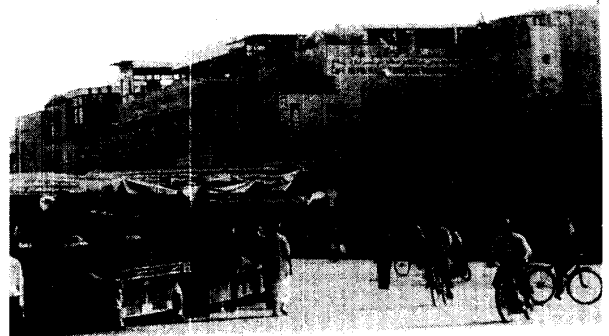


写真-18 マラケシュのジャマア・エルフナ広場

フェズ=エルバリでは城門を入るとすぐ迷路状の街路が展開する。街路は敷石で舗装されていて、道幅は狭く、荷を背負ったロバの往来と人ひとりすれ違うのがやつのところもある。上部をアーケード状に覆ったスークはカラウィーン・モスクの近く、比較的町の中心部に形成されている(写真-19)。建物は開口部も少なく、商店も扉を閉めると通りに対して閉ざした壁面を形成する(写真-20)。



写真-19 フェズのスーク



写真-20 フェズの街路

B. イスラームの都市の中に他の要素が入り込んだもの

イスラームの都市がヨーロッパの影響を受け、イスラームの都市構成を保ちつつ、他の要素を受け入れてきてできた形態も存在するようである。

ラバトの旧市街は城壁に囲まれ、袋小路を持つ小路によって主に構成されている。イスラーム圏独自の都市の街路構成を持つが、住戸の開口部周りに植物や彩釉タイルの装飾が見られたり、壁面が白く塗装されているなど外部空間のファサードを形成する要素を持っている(写真-21)。

地中海沿岸のヨーロッパ諸国でも壁面を白く塗り、窓辺に花を飾るなどの装飾が施される例は多数ある(写真-22)。



写真-21 ラバトの白い町並み



写真-22 ミコノス島(ギリシャ)

C. ヨーロッパの都市計画の下に形成されているもの

都市の歴史の中でヨーロッパの国の支配下におかれ、キリスト教圏の国の都市計画で形成された都市がある。

エッサウィラ、エル・ジャディーダはいずれもヨーロッパの国によって計画された都市である。

エッサウィラは旧市街を貫く直線的な道路が、この町の中心である。日用品や食品を扱う市場は機能分化した施設がこの通り沿いに並ぶ形態となっている(図-13)。こうした形態はヨーロッパでも見られる。ベルギーのブリュージュにおいても魚市場・穀物市場・皮革市場と機能分化した広場が町の中心に並んでいた(図-14)。

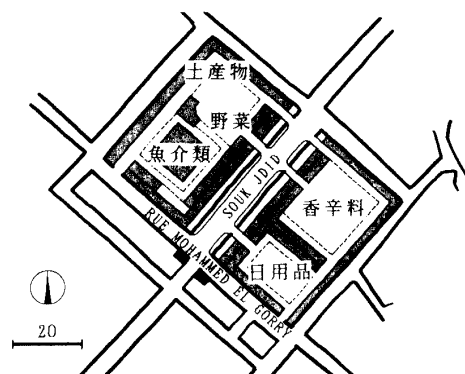


図-13 エッサウィラの市場

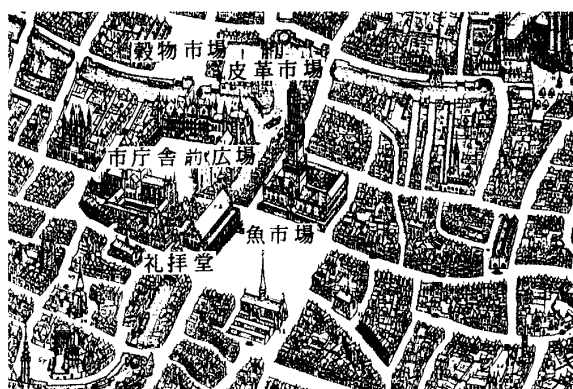


図-14 ブリュージュ(ベルギー)
(『図説 都市の世界史2中世』より)

またこのエッサウィラではAタイプのスークの形状とは異なり、道幅も広く舗装され、歩道も設けられており、通り自体が旧市街内の商業活動の中心を形成していると考えられる。通り

に面する建物の1階にはアーチ状の歩廊が設けられ、ヨーロッパの都市の形態に類似するものが感じ取れる(写真-23、写真-24)。



写真-23 エッサウィラ

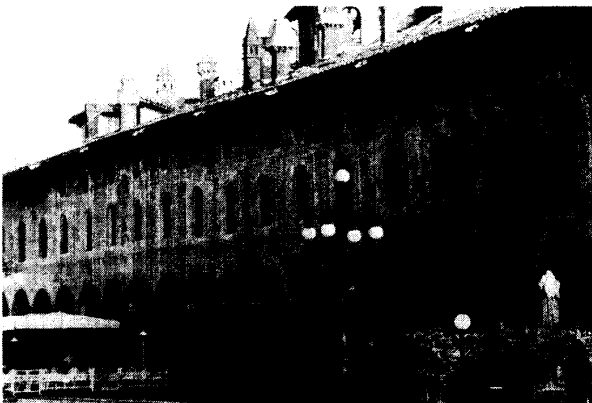


写真-24 ヴィジェヴァーノ (イタリア)

またムーレイ・エルハサン広場は城門の近くに位置するが、Aタイプのような市場的な機能は見られない。ホテルのカフェでたたずむ人々の姿はヨーロッパの街角のカフェが並ぶ風景に似ている(写真-25、写真-26)。



写真-25 エッサウィラのムーレイ・エルハサン



写真-26 マドリード (スペイン)

エル・ジャディーダのTerreiro広場も城門近くに位置するが、これもAタイプのような市場的な機能はない。教会とモスクが隣り合わせに建ち、モニュメンタルな要素が感じ取れる。(写真-15参照) また街路に面する住宅群も多層階を形成し、がらり付き窓が設けられているものも見られた。(写真-27)



写真-27 エル・ジャディーダ

以上のことから中世を起源とするヨーロッパの都市像とイスラームの歴史的都市像を対比的にみると、今回取り上げた5都市の3タイプは下図のような位置関係になると考えられる。

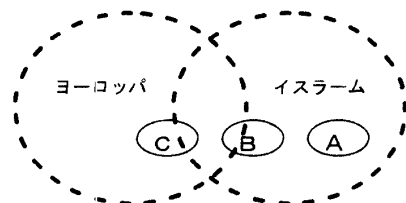


図-15 モロッコの都市タイプの位置

5. 終わりに

今回の調査を行う以前は、モロッコの都市空間を単にイスラーム社会と捉える傾向があったが、実際その中に足を踏み入れてみると、イスラーム教の下に統一されながらも、空間の構成に差異がみられることが判り、ここでは3つのタイプを紹介した。

空間の詳細な分析はこれからの課題となっていくが、ヨーロッパのキリスト教文化圏でみてきた広場の事例がそうであるように、都市空間は多様であり画一的ではない。イスラーム教圏においても同様で、今回調査を行った地だけでもそれぞれの違いが浮き彫りにされる。

この結果はこれまでに蓄積してきたヨーロッパの都市のデータに加えることで、都市空間分析の手がかりとしていきたい。

参考文献

- 1) A MARRAKECH ET DANS LE SUDMAROCAIN, MARIE-PIERRE LEVALLOIS, ARMELLE DE MOUCHERON, GUIDES HACHETTE VISA, 1989
- 2) ARAB GULF STATES, GORDON ROBISON, LONELY PLANET PUBLICATIONS, 1993
- 3) GUIDE DE TOURISME MAROC, PNEU MICHELIN, 1989
- 4) HABITATS DES QSOURET QASBAS DES VALLEES PRESAHARIENNES, SAID MOULINE, MINISTERE DE L'HABITAT, 1991
- 5) MAROC, ADELAIDE BARBEY, GUIDES BLEUS, 1987
- 6) MOROCCO, PATRICK J TYSON, LONELY PLANET PUBLICATIONS, 1989
- 7) MOROCCO A GUIDE AND HISTORY, NINA BANON, LEGAL REGISTRATIONS, 1991
- 8) MOROCCO ALGERIA & TUNISIA, GEOFF CROWTHER & HUGH FINLAY, LONELY PLANET PUBLICATIONS, 1992
- 9) NELLES GUIDES MOROCCO, NELLES VERLAG GMBH, 1992
- 10) REPERES DE LA MEMOIRE FES, SAID MOULINE, KAOUTAR SEFIANI, MINISTERE DE L'HABITAT, 1993
- 11) REPERES DE LA MEMOIRE MARRAKECH, SAID MOULINE, MINISTERE DE L'HABITAT, 1993
- 12) THE MOSQUE HISTORY, ARCHITECTURAL DEVELOPMENT & REGIONAL DIVERSITY, MARTIN FRISHMAN AND HASAN-UDDIN KHAN, THAMES AND HUDSON, 1994
- 13) THE WORLD OF ISLAM, BERNARD LEWIS, THAMES AND HUDSON, 1992
- 14) URBAN DEVELOPMENT IN EASTERN EUROPE: BULGARIA, ROMANIA, AND THE U.S.S.R., E.A. GUTKIND, A DIVISION OF MACMILLAN PUBLISHING, 1972
- 15) アフロアジアの民族と文化(民族の世界史11), 矢島文夫編, 山川出版, 1985
- 16) イスラムの都市性 全体集会報告書, イスラムの都市性事務局編, 第三書館, 1991
- 17) イスラム事典, 日本イスラム協会監修, 平凡社, 1982
- 18) イスラム世界の発展, 本田実信, 講談社, 1985
- 19) イスラム都市研究, 羽田正, 三浦徹編, 東京大学出版会, 1991
- 20) イスラム都市, ベシーム.S.ハキーム, 第三書館, 1990
- 21) モスクが語るイスラム史, 羽田正編, 中公新書, 1994
- 22) 事典イスラムの都市性, 板垣雄三, 後藤明編, 亜紀書房, 1992
- 23) 集落への旅, 原広司, 岩波新書, 1987
- 24) 住居集合論その1 - 地中海地域の領域論的考察, 東京大学生産技術研究所・原研究室, 鹿島出版会, 1973

- 25) 昭和女子大学学苑621号 東欧都市広場形態についての考察-1990年東欧都市広場調査報告-, 芦川智, 鶴田佳子, 昭和女子大学 近代文化研究所, 1991
- 26) 昭和女子大学学苑633号 東欧都市広場形態の考察-1991年海外都市広場調査報告-, 芦川智、鶴田佳子, 金子友美, 昭和女子大学 近代文化研究所, 1992
- 27) 昭和女子大学学苑644号 トロ・キリシヤ都市広場形態についての考察-1992年海外都市広場調査報告-, 芦川智, 鶴田佳子, 昭和女子大学 近代文化研究所, 1993
- 28) 昭和女子大学学苑655号 北欧・フランドル等都市広場形態についての考察-1993年海外都市広場調査報告-, 芦川智, 金子友美, 昭和女子大学 近代文化研究所, 1994
- 29) 昭和女子大学学苑671号 北部イタリア都市広場形態についての考察-1994年海外都市広場調査報告-, 芦川智, 金子友美, 昭和女子大学 近代文化研究所, 1995
- 30) 新書イスラームの世界史 2, 鈴木薫編, 講談社現代新書, 1993
- 31) 図説 都市の世界史 2 中世, LEONARDO BENEVOLO, 相模書房, 1983
- 32) 世界の聖典 3 コーラン, ひろさちや, 黒田とし郎, すずき出版, 1992
- 33) 生活の世界歴史 7 イスラムの陰に, 前嶋信次, 河出書房新社, 1975
- 34) 西アジア上 (地域からの世界史 7), 屋形禎亮, 佐藤次高, 毎日新聞社, 1993
- 35) 西アジア上 (地域からの世界史 8), 永田雄三, 加藤博, 毎日新聞社, 1993
- 36) 地球の歩き方11 モロッコダイヤモンドビッグ社, 1994
- 37) 中東の民衆と社会意識, 加納弘勝, アジア経済研究所, 1991
- 38) 都市文明イスラームの世界 シルクロー

ドから民族紛争まで, 第5回大学と科学公開シンポジウム組織委員会, クバプロ, 1991

- 39) 旅する21世紀ブック 望遠郷 7 モロッコ, 宮治一雄, 岡真理, 青木文子, ガリマル社, 同朋社出版, 1995

引用文献

- 註 1 図説 都市の世界史 2 中世, レオナルド・ベネーヴォロ, 相模書房, 1983
- 註 2 イスラム事典, 日本イスラム協会監修, 平凡社, 1982